



正

之

17

210

三  
十

12

12

正

之

日本

正

之

勝本鼎一

大阪市西區南堺江口二丁目

アサンキョウを抱き、腰かかと離さず腰をかし  
て、腰から腰へ、腰をもててお声で歌  
う。口を起さるるは「本音」のやし  
せん、意地悪を申すのが、腰譯一迷りのやが  
れは、どうぞ思ふよ。

わづ音節、いわづ音節、かめにあつた  
たゞ、腰譯もして、腰を離したじき腰をかけ  
て、腰から腰へと腰を離す。山先生曰く、腰を  
余り離さぬ、腰を離さぬ、腰を離さぬ、今度は腰を離さ  
ぬ、腰を離さぬ、腰を離さぬ、腰を離さぬ、腰を離さぬ  
腰を離さぬ、腰を離さぬ、腰を離さぬ、腰を離さぬ、腰を離さぬ

お工を抱き、腰を離さぬ、腰を離さぬ、腰を離さぬ  
腰を離さぬ、腰を離さぬ、腰を離さぬ、腰を離さぬ、腰を離さぬ

比他一脉神氣不凡。此詩筆力雄健，一目了然。昔韓昌黎有

仰從海東凡二十七年多至四十萬石加之又而

白く“ホホ”と笑へる様子。フラン

の二年生が、万葉

ハセトガシウラノミツ。

12月 26日

ハセトガシウラノミツ。笑はせぬ。

九月十九日

八月二十日

晴  
二

26